

第 1 分科会		研修俯瞰図番号 B3	
テーマ	ネイチャーゲームで感性を拓こう		
講師	勝間 光洋 先生 (岡山県シェアリングネイチャー協会 ネイチャーゲームインストラクター)	会場	岡山県生涯学習センター
ねらい	幼児教育に携わっている方が、まず直接的な体験をすることによって「自然への気づき」を自分なりに高めたり、生活の中にかさそうとしたりするとともに、幼稚園での直接自然体験の大切さに、気づくことができるようにする。		
日程	8 : 4 5 ~ 受付 (現地集合) 9 : 0 0 ~ 講義 野外で自然体験 講義 太陽の丘公園にて自然体験 講義・質疑応答 1 2 : 0 0 解散 (県外の方は岡山駅まで送迎)		

《内容》

◆ 講義

● 幼稚園教育要領より「環境を通して行う教育」のキーワード

- ・遊びの中で身近な環境に関わる
- ・豊かな体験を通じて
- ・直接体験が重要
- ・一緒に活動する楽しさ
- ・豊かな感性
- ・自然の中にある音、形、色などに気付く
- ・言葉に対する感覚を豊かにする

ネイチャーゲームはまさにこれらの要素を持ち備えている活動である。

● 五感の刺激は 「脳の発達」「心の発達」に繋がり 非認知能力の獲得、向上になる。

● 豊かな体験とは 自然環境に触れる中で 面白さ、驚き、美しさ、不思議さ、楽しさを感じながらフロー（没頭）し新たな気づきを得ることができる体験であり、そのために必要な事として 周りの大人は 見守り・承認し・共感し・再構成していかなければならない。

傍にいる大人が ★感動する心を失わないこと

★子どもの感動に寄り添うこと

★自らが（自然）体験を楽しむこと

★日々の生活に自然を取り込むこと を心掛けることも大切である。



◆実践

●カモフラージュ

自然の中に目立たないように置かれた人工物を注意深く探すゲームを体験し 敵から身を守ったり、獲物を捕らえたりなど 生き物の生存のための知恵や不思議さを知り 身近な生き物に興味を持つ体験をした。今回は「世界のカエルのフィギュア」や「身近な昆虫のフィギュア」をそれぞれ15ずつ隠し 探す活動を体験。

↓

注意深く観察することで 発見した時の喜びを味わったり 虫が苦手な人でも夢中になって探すことができたり また 身近に自然があまりない場所でも工夫次第で子どもたちと一緒に楽しめる活動であることなど 実践を通して共有した。



●フィールドビンゴ

「五感を使う自然体験」として自然の中から探してもらいたい項目が書かれたカードを持って3～4人で「きのみ」「ぬげがら」「鳥の鳴き声」などを自然の宝ものを探すビンゴゲームを体験した。

協力したり、共感したりなど仲間と一緒に楽しみながら、発見や気づきを喜び合う体験ができた。

園外保育など その場所にあった項目を取り入れてオリジナルビンゴカードを作って楽しむことも可能であることを知り現場でも実践したいと思う体験であった。



●宝さがし

「宝ものリスト」に書かれている物を探す。

「ふしぎなかたちの石」・「身に着けているものと同じ色のもの」・「おまもりにしたいもの」など

↓

持ってきたものを紹介し 一人一人の発見を褒め それを分かち合うことや 同じものでもそれぞれ 感じ方が違うということに気づくことができた。



《まとめ》

- 感覚や感じ方が人によって違うことや、嫌われがちな虫にもそれぞれの役割があると知ることで、人もまた「一人ひとり違ってあたりまえ」と感じる 多様性を認めることができるようになり、自分以外の人の意見や行動を尊重する考えが育まれる。
- 勝ち負けや優劣にこだわらず 好きなものや感じたことを認めてもらう経験をすることで ありのままの自分を好きになり自信を持てるようになる。

周囲の大人の「共感」「受容」「分かち合い」は幼児期には欠くことのできない大切なことである。ネイチャーゲームの中には 多くの学びがあり、学びとは楽しいことだと知ることはとても大切なことである。

今回は 猛暑の中での野外活動となったが どんな環境であっても 「できない」ではなく その環境の中でできることを考え、工夫しながら必要な環境を作っていくことが大事であると感じた。

《担当園／記録者氏名》 明星幼稚園 柳 純恵